



「作る」でつながる ～アイロンビーズ作りでの交流～

来週の橋祭に向けて、学校中に歌声が響いています。E級の教室でも本番のステージに向けて、毎日練習をがんばっています。また、毎年行っている販売に向けても、作業学習の時間を中心に準備を進めています。その販売で小さな子どもたちに人気の商品が、手作りのアイロンビーズです。E級の生徒たちもいろいろな作品を作っています。さらに、交流学級の生徒と一緒に作るアイロンビーズ交流も行っています。昼休み時間を使って、作品作りに取り組む教室をのぞいてみると、色の組み合わせを一緒に考えたり、E級の生徒が道具の使い方をアドバイスしたりと楽しく交流する姿が見られます。もの作りでの交流は、会話でのコミュニケーションが苦手な生徒も楽しく触れ合うことができるので、今後も様々な作品作りを計画していきたいと思います。



「造る」でつながる ～清掃交流から新たな仕事が誕生～

本校では、清掃の時間にもE級の生徒と交流学級の生徒が協力して活動しています。仕事の手際が良い交流学級の生徒がE級の生徒の見本となったり、時間いっぱい丁寧に仕事をするE級の生徒が交流学級の生徒の見本となったりと、互いに刺激し合っています。そんな清掃交流が行われている正面玄関。毎日互いに協力して、学校の顔である正面玄関をきれいにしていますが、担当の生徒たちがずっと気にしていたのが、正面玄関横の駐車場の看板。「校長」と書かれた文字は消え、板もボロボロになっていました。そこで、正面玄関清掃担当のE級の生徒が工芸の作業学習の時間に、新しい看板を造りました。「正面玄関をさらにきれいにしたい。」というE級と交流学級の生徒の思いが重なり、新しい作業学習での仕事が生まれました。



「創る」でつながる ～人をつなぐ仕事をイノベーション～

今、宮崎で着物のリメイクで注目を集めている友人がいます。着ることが少なくなった着物を、今流行のスタイルの服にしたり、バッグや小物に加工したりして人気を集めています。

ところで、この友人が着物リメイクの仕事をしたのは、いくつかの理由があります。その一つが、医療的ケアを必要とする娘さんの存在です。常にケアを必要とするため、その友人は自宅だけでなく学校にいるときも付き添いをしています。そこで、自宅や学校の待機室でもできる仕事として、以前から興味があった縫製の仕事を始めました。そして、娘さんの成長とともに、「車いすの人でも着られる着物を作りたい。」と思い、上下に分けて着られる着物も作り始めました。その結果、今では自分と同じように介護のために仕事に行くことが難しい保護者の方たちに、リメイクの仕事を手伝ってもらう形で、新たな仕事の場を創り出しています。さらに、「車いすの人にも着てほしい。」と思って作った着物は、「初めて着物に触れる人でも簡単に着られる」と海外の方も興味を示しています。そんな母親の姿を見ていた娘さんも、現在特別支援学校に通いながら、将来ファッションに関係する仕事をしたいとがんばっています。

「我が子が二十歳の成人式を迎えたとき、友達と一緒に着物姿で出席してほしい。」そんな一人の思いから始まった着物リメイクは、今たくさんの人たちを喜ばせるだけでなく、たくさんの人をつなぐ新しい仕事の形へとイノベーションしています。

